思考への探求

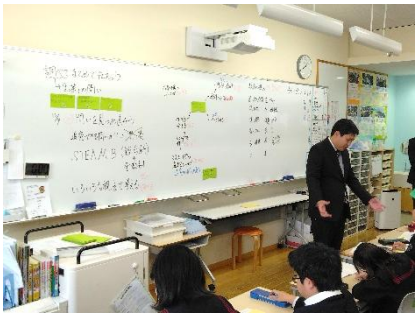
校内研究だより
令和７年１２月 ９日
No.５

― 挑む力 ―

学ぶこと・考えることを楽しむ
全教科で育てる「言葉の力」
～失敗をおそれず　自ら学びを進める子どもの育成～

2025 年12月9日、本年度第5回校内研究として、太田隆平教諭（5年 1 組担任）による『STEAM-B』の公開授業が実施された。今年度の研究テーマは「学ぶこと・考えることを楽しむ全教科で育てる『言葉の力』～失敗を恐れず自ら学びを進める子どもの育成～」である。

「言葉の力」を育む授業実践



『STEAM-B』の時間に、探究的な活動に取り組んでいる５年生。本時のねらいは、「現在の問いを、『追究できる問い』に磨くために、問いを見つめ直すこと」であった。そのために、共通テーマとして「お茶」を設定し、子供たちには「教科の視点」を与えて考えていくように導いていった。そうすると子供たちは、「つくり方について考えるのは、家庭科かな」「お茶をつくっているメーカーを考えると、工業と関わるから、社会だ」「音楽で考えたよ。お茶をたてるときにちょうどいいリズムがあるのかどうか」「理科でやった対照実験で確かめる必要がありそう」と、思考を広げていきました。次時では、本時の学びを生かして、児童個々の問いを見つめ直していく。

研究協議会での評価と課題

研究協議会では、今後の『STEAM-B』の可能性や、本時で思考を広げた子供たちのこれからの姿に対しての大きな期待が話題の一つとなった。一方で、「問いを見つめ直すための教科的視点の獲得」という目的のために、教師の説明的役割が多くなってしまっていたことなどが課題として指摘された。

一般社団法人『まなびぱれっと』代表理事　小泉志信先生からの御指導

小泉志信先生からは、『探究活動』について、その言葉の概念や意味、活動における段階、「問いを磨く」とはどういうことなのかなど、ご指導をいただいた。授業を評価していく際には、1時間の授業だけではなく、「単元」単位での評価についても言及された。ご指導の中で、「教師は、子供が最初にもった問いを、最後まで持ち続けていくことにこだわってしまうが、問いとは変わるものであり、変わっていくなかで磨かれていく。その磨かれた問いに向き合うことが探究のゴールである」という言葉が印象的だった。

今後の展望

今回の校内研究会では、太田教諭とともに、これからの『STEAM-B』で実現していきたい子供の姿と、そのための教師の役割について考えることができた。小泉先生の「教育実践はクリエイティブで再現性がないものであり、今の子供たち、今の教師たちだからこその学びをつくっていきましょう」という言葉とともに、本校の『STEAM-B』という学びの場の価値を見つめていきたい。